

平成20年度「専修学校を活用した再チャレンジ支援推進事業」成果報告書

事業名	心理テストと産学官連携デュアルシステムを利用した進学・就職支援		
法人名	学校法人 府内学園		
学校名	大学進学予備校 府内学園		
代表者	理事長 財前俊樹	担当者 連絡先	松尾敏生(まつおとしお) TEL097-546-5213

1. 事業の概要

本学園はNPOと連携したニートに対する職業教育支援事業(文部科学省委託)として、平成18年度は就職や進学に役立つような「各種検定及び資格取得を支援事業」を、平成19年度は訪問と学校校舎にトラウマを持つ引きこもりの方を対象とした「訪問教育とデュアルシステムを利用した進学・就職支援事業」を開講した。そのときの問題点として、①自立支援アドバイザーのいう「受講者の精神的な部分では就業に近づいている」という点を数値化、②デュアルシステム後の就業への導き、③公的機関所属者の連絡協議会委員参加が挙げられた。

本年度は、①について、大分大学心理学教室の協力を得て、講座受講の前後での心理テストのバッテリー(投影法・質問紙法)を組み、受講前後の心理変化を測定し、それを進路指導の参考資料とした。②については、キャリアカウンセラーの利用を行い、デュアルシステム以降の就職進学指導に役立てたい。また、③については公的機関として就業に重点を置き、本申請が採択された場合は、ハローワークに連絡協議会の参加を要請した。

講座は、(1)対人関係に苦手意識を持たない商業系統の就職を希望する者に対し、簿記コース(指導:田北学園及びPC関係講師)を、(2)対人関係が苦手で、生活の糧となる技術を身につけることを模索したい者に対し、製菓コース(指導:豊の梅園菓子企業組合)を、また(3)スキルアップと高い理想をもつ者には進学科(指導:府内学園予備校講師)を、(4)長いニート生活で学習になれていない者にはPC基礎・書道・自分表現講座を、開講する。本年度初めての試みである自分表現講座は、他人の勧誘を拒否したり、自分の意思をはっきり表現できるようになるため、発声練習・体操等を取り入れた所謂自己表現を主体とした講座で、受講者からの開催希望の最も多かった講座である。また平成19年度実施したデュアルシステムの段階で終わらせずに、その後の就職先模索には、キャリアカウンセラーが指導し、進学を希望した者には、本学園進路指導者が個々個人に応じた受験計画を模索する。

2. 事業の評価に関する項目

①目的・重点事項の達成状況

受講後の進路は1月20日現在で、進学 4名(短大2名=男2名 専門2名=男女各1名)、就職 5名(事務2=男2名・製造2=女2名・その他1=男1名)、アルバイト6名、未定 29名で34%の決定であった。

事前のエゴグラムでは、AC優位22名、NP優位5名、FC低位5名、NP低位1名、FC優位1名、NI 1名、NII 1名、NIII 3名、W2名、A優位1名、A低位2名であった。本講座の受講希望者の特性として、全般的にエネルギーが低く、AC優位(従順な性格の者)が多いことが明らかになった。講座受講後に、再び心理検査を希望受講した者は27名であった。その結果はAC優位 11名、FC優位1名、FC低位1名、NP低位1名、NI 1名、NII 3名、NIII 2名、W1名、A優位3名、A低位1名、平坦II 2名となり、変化した者は14名であった。平均化すると得点で男性・女性ともACが下がり、FCとAが上がり、総得点は男性2点、女性3点高くなっていた。これは従順な性格から物事を楽しめ、物事を楽しめる性格に移行し、持っている心理的エネルギーがわずかに向上していることを意味している。受講生にとって本学園のもつ意味合いを推測することを目的に、エゴグラムの結果の平均化をして受講生の動向を推察したが、本来、エゴグラムは個々個人において、評価すべきものである。

②事業により得られた成果

本講座の受講生は全体的に明るい方向に向かっている。このことが、TEGとバウムテストの結果にあらわれていた。このことはこのような緩やかな居場所が彼らにとって必要であり、ニート・フリーターから脱出するきっかけになっていることを示唆していた。

③今後の活用

本事業は、所謂ニート・フリーターと呼ばれる人たちの緩やかな居場所となっている。受講者が次の段階に進むためのワンステップになっている。

④次年度以降における課題・展開

本講座の受講生から引き続き有料でもよいので受講を希望したいという声が、挙がった。反面、受講したいが有料ではできないという声も挙がった。彼等は就業をしておらず、また大半は年齢的に保護者から金銭をもらえない状況にあるため、ほとんどお金をもっていない。低料金での受講が可能になれば、受講生が集まり、支援はできるであろう。今後の課題として、本講座で家庭に引きこもらず、外にでて学習ができる講座と、外で学習できるようになった若者が手に職をつけるための講座の2つが必要であることが挙げられた。

3. 事業の実施に関する項目

①履修証明書等

基本的にそれぞれの検定試験合格者に対しては、検定協会の方から合格通知が出されている。それ以外には、本学園にて就職または進学に向けて7ヶ月間学習しておいた証明書を本学園理事長名で発行する。ジョブパスポートへの記載はキャリアカウンセラーをお願いしている。

②カリキュラムの内容

(1) 対人関係に苦手意識を持たない商業系統の就職を希望する者に対し、簿記コース(指導:田北学園及びPC関係講師)を、(2) 対人関係が苦手な、生活の糧となる技術を身につけることを模索したい者に対し、製菓コース(指導:豊の梅園菓子企業組合)を、また(3) スキルアップと高い理想をもつ者には進学科(指導:府内学園予備校講師)を、(4) 長いニート生活で学習になれていない者にはPC基礎・書道・自分表現講座を、開講する。

③講座の実施

(1) 簿記コース (販売士・簿記・PC合計250時間).....7月18日～1月31日
(2) 介護調理コース(製菓。PC合計300時間).....7月18日～12月20日
(3) 進学コース(国語・英語・数学・社会・英会話合計200時間).....7月18日～1月22日
(4) ”学”習慣コース(PC基礎・書道・自分表現合計150時間).....7月18日～1月31日
の4つのコースで実施した。

実人数で44名が受講した。何人かが重複してコースを受講したために、

(1) 簿記コース27名、(2) 介護調理コース10名、(3) 進学コース5名、(4) ”学”習慣コース13名の合計55名が受講する。